フクニチ住宅新聞　平成25年8月23日号

柱のない大空間

「見たことのない新しいシステム」

建築構法の第一人者 内田祥哉氏が 福永博建築研究所が設計の住宅「森の会館」を視察

東京大学名誉教授で日本建築学会会長を務めた建築構法の第一人者・内田祥哉（よしちか）氏が7月、㈱福永博建築研究所が設計した住宅「森の会館」（福岡市中央区平和2）を視察した。木造のトラス構造を用いた自由度・可変性の高い構法に着目し、内田氏が学校長を務める一般財団法人「住まいの学校」で工務店の新たな戦力として全国に広めていく意向。視察には財団の石原秀一常務理事が同行。福永所長と設計した福永晶子さん、施工した㈱総建の樋口貴哉社長らが案内した。

建物は203平方㍍（約61坪）の2階建で、1階リビングに大きな吹抜けを設けた。2階床を支える梁に300㍉×100㍉の木材2～3本を束ねて複数箇所に用いることで7㍍四方のリビングから柱をなくし、開放的な空間を実現している。昨年末に着工し、4月中旬、竣工した。

内田氏は「見たことのない新しいシステムだ。これは在来工法とも違うし、どちらかと言えば2×4に近い。木材の継ぎ手仕口をつくらずに断面をフルに使う洋風の良いところを取り入れている。同時に大工さんが技術を発揮できる和風の良さもある」と感想を述べた。

この構法は建て前時に現場でトラスを組んでつくり込んでいく。プレカットを用いないため現場合わせの技術を要することも多い。内田氏は「大工の仕事を取り戻した」とも語る。

柱のない大空間は「仕切らずにワンルームで使うのもいいし、家族のライフサイクルに応じて仕切る、あるいは2世帯住宅にするなど、建物自体の強度を気にせずにできる。数寄屋造りでも書院造りでも大工さんの腕の振るいどころだ」と、その可変性、自由度の高さを評価した。

一般住宅へ展開

設計者の福永晶子さんは「この技術を一般住宅へ展開していきたい」としている。同研究所では、生き残りをかけた地方の工務店の新たな戦力にと、様々な機会をとらえて構法の紹介に努める考えだ。

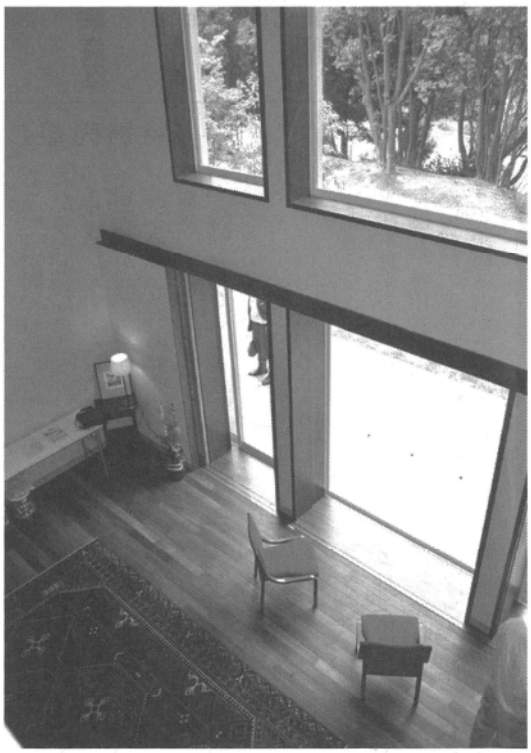
自由度・可変性高い構法

建物の構造について福永博所長から説明を受ける内田祥哉氏

「住まいの学校」が注目

……内田祥哉氏が学校長……

工務店の新戦力に 普及めざす



1、2階吹き抜けのリビングスペース（森の会館）